

# 編集後記

佐藤茂樹先生の「十八世紀ドイツの子どもの本」の連載が今回で終わる。遠い時代の書物を読むにはその頃の社会的構造とのかかわりを読みこまなくてはならない、ということ、を、当時の教育書よろしく、会話形式で解説してくださいって興味深い。先日大学院の学生さんと明治、大正年間の「幼児の教育」誌を読んでいたら、「なんだかおかしくて笑えてきてしまう」という感想が出た。現代と当時との家庭関係、社会構造の違いや、子ども観の違い、それが語られる言葉の違い、仮名遣いの違い、その上に現代とは一種異なった独特の文章のリズム……。いたっ

て大真面目な内容との奇妙なアンバランス感が「笑い」を誘うというところらしい。

子どもが新しい書物で、大人はその読者だとする。その表現が稚拙で未熟で「滑稽で笑える」というような保育者がいたら、それは嘲笑という笑いだ。一方、子どもの表現の中に、その子どもひたむきさや育つことへの希望をみだして、思わず相好をくずすという笑いもある。大人の笑いの質の違いを、おそらく子どもは瞬時に読み取っている。大人がひと世代上の高みから見下ろした笑いに子どもは敏感であるし、こうした笑いに追従してどうにか生きていく子どもを「いい子」だといっている子どもらるか。

●本誌のご感想やご意見などは、  
youjinaki@yahoo.co.jp まで。

## 幼児の教育

第一〇四巻 第十一号

(二〇〇五年十一月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十七年十一月一日

編集兼発行人 浜口順子

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8610 東京都文京区大塚二二-1

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五二-1

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六一-四一九

☎〇三-五三九五-六六一三(営業)

☎〇三-五三九五-六六〇四(編集)

振替 〇〇一九〇-1-19640

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」をお願いします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。